

第1部

1, ドンキホーテ夢の場よりドルシネアのバリエーション

中世の騎士道物語に夢中になり、我こそ物語の中の勇敢な騎士だと思い込んだドンキホーテは従者のサンチョパンサを従えて理想の姫”ドルシネア”を探す旅に出ます。バルセロナの街にやってきたドンキホーテは街の娘キトリを一目見て彼女こそドルシネアだと勘違い。キトリを追いかけてジプシーの野営地にやってきたドンキホーテは風車を怪物と勘違いし突撃しますが落下し気絶してしまいます。夢の中で理想の女性ドルシネアが踊ります。

2, バヤデール第3幕よりガムザッティのバリエーション

戦士ソロルが愛しているのは寺院の舞姫ニキヤ、しかし王は自分の娘ガムザッティと結婚するよう迫ります。この踊りはは婚約式を終えていよいよ結婚式、誓いの場で踊るガムザッティのバリエーションです。

3, 眠れる森の美女第1幕より鷹揚の精のバリエーション

お城ではオーロラ姫の誕生を祝う盛大な祝宴が行われています。6人の妖精達も招待されそれぞれが姫の人生に贈り物を捧げます。美しい心、健康な体、綺麗な声、勇気、知恵など。鷹揚の精はパンくずの精という言い方もあるようです。確かに振り付けの中にパンくずをまいているような手の動きがあるので注目ください。

4, 白鳥の湖第1幕よりパドトロワ第1バリエーション

舞台はドイツのある王国、王子ジークフリートの成人を祝うパーティーが盛大に開かれています。王子の友人達も踊ります。パドトロワは3人組の踊りのこと。ここでは男性1人、女性2人で踊られる中の1曲をご覧ください。

5, 白鳥の湖第2幕よりグランアダージオ

明日の舞踏会で結婚相手を選ぶように言われ憂鬱な気分の王子は白鳥の群れを追って狩りに来ます。湖のほとりで1羽の美しい白鳥が娘の姿に変わるのを見て驚く王子。自分はある国の姫で、フクロウの姿をした悪魔に侍女達と共に白鳥に姿を変えられ、夜の間だけ人間の姿に戻ることができる。その呪いはまだ誰にも愛を誓ったことのない青年の愛の誓いによってしか解けないと身の上を話します。ひと目で恋に落ちた王子は明日の結婚式で誓うことを約束し最初は怯えていた王女も徐々に心を開き2人は愛のパドドゥを踊ります。

6. ゼンツァーノの花祭りよりバリエーション

舞台は19世紀初頭のイタリア、ゼンツァーノの街。この地で開催される花祭りを舞台に繰り広げられる若い恋人達のお話です。全1幕のバレエ作品ですがパドドゥだけ取り出して上演されることも多くブルノンヴィルスタイル独特のジャンプや足さばきが注目される振り付けが特徴的です。

7. タリスマンよりグランパドドゥ

タリスマンはマリウスプティパが振り付けた全4幕のバレエです。あらすじは天界に住んでいる女神ニリチが地上に修行に行くことになり母から渡されたのがタリスマン”お守り”です。このお守りを持っていればいつでも天界に戻れるけど人間に恋してしまったら戻れなくなると言われます。人間のヌレディンという男性がニリチに一目惚れして、彼女が落としたタリスマンを拾います。タリスマンを取り返したニリチは天界に帰ろうとしますがヌレディンの涙を見て心動かされ人間界に残ることを決めます。2人が最終的に結ばれるときに踊られるシーンです。

8. 眠れる森の美女第3幕よりフロリナのバリエーション

邪悪な妖精カラボスにかけられた20歳の誕生日に指を刺して死ぬでしょうという呪いをリラの精によって変えてもらえ100年の眠りにつくことになったオーロラ姫、王子のキスにより目覚めたオーロラ姫の結婚式でおとぎ話の主人公達も踊りを披露します。青い鳥とフロリナ王女のパドドゥからのバリエーションです。

第2部

1. バヤデール影の王国より第3バリエーション

ガムザッティとの婚約式で手渡された花籠の中の毒蛇に噛まれて息絶えてしまったニキヤソロルはニキヤを失った苦悩と罪悪感から逃れようと阿片を吸って眠りに落ちます。夢の中でバヤデール（舞姫）の幻影が乱舞します。その中の一つのバリエーション、幻影の象徴のような静かに流れる動きが特徴です。

2. バヤデール影の王国よりパドドゥ

夢に現れたニキヤに許しを請い一緒に踊ります。永遠に続いて欲しいと思うも夢から覚めニキヤの幻影も消えてしまいます。

3, エスメラルダよりバリエーション

このタンバリンのバリエーションはオリジナルのバレエ作品エスメラルダに入っているのではなく後から振り付けられたバリエーションです。ジプシーの娘であるエスメラルダという役柄ならではの衣装や音楽という感じがします。

4, フローラより青春の女神のバリエーション

フローラが目覚めという結婚祝賀曲のために作られた古代ギリシャ神話に基づいた1幕物のバレエの中の踊りです。月の女神、暁の女神、青春の女神、花の女神 4人で踊られるパドカトルの中から青春の女神のバリエーションです。

5, 白鳥の湖第2幕よりオデットのバリエーション

白鳥の湖の第2幕で踊られる有名なバリエーションです。白鳥を表現する腕や首の動きに加え自分の悲しい境遇、そしてもしかしたらという王子への期待が入り混じる心理表現の要素も込められて振り付けされています。

6, リーズの結婚よりリーズのバリエーション

フランスの田舎、農家の娘のリーズはおてんばでいたずらっ子。自分が愛しているのは農夫のコーラスですが、お母さんは裕福な農園主の息子アランと結婚させたがっています。そんなお母さんの目を盗んで愛を育む2人の姿に最後はお母さんも納得して結婚を許します。そんなリーズの喜びにあふれたバリエーションです。

7, ベニスの謝肉祭よりサタネラのバリエーション

こちらもほとんどパドドゥのみで上演されることが多い作品です。サタネラは小悪魔。妖艶な魅力を振りまいて相手を虜にしてしまうのです。衣装、振付からそんな要素がたっぷり伝わるバリエーションになっています。

8, シルビアよりグランパドドゥ

ここで踊られるパドドゥは振付家ジョージブランシンによるもので全幕のシルビアとは異なったものになっています。物語があるのが常識だったバレエを、音楽に合わせた動きで見せる表現を作ったブランシン独特のスタイルの踊りです。

9, 熊蜂の飛行

リムスキーコルサコフの有名な熊蜂の飛行の曲に創作された柴田進一によるオリジナルな振り付けです。8人のピアニストによる共演で弾かれている音源で踊ります。

熊蜂は全体的に黒くて胸部に黄色い毛があり”ブブブ”と不快な羽音を立てるので凶暴で恐ろしいイメージにつながっていますが実際はミツバチの仲間です。非常におとなしい蜂です。